

都道府県番号	17
都道府県名	石川県

【 】

学校名及び規模

学校名	押水町立押水中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	19
生徒数	82	92	83	1	257	

研究の概要

(1) 研究主題

基礎・基本を確かに身に付け、自ら考え自ら学ぶ生徒の育成

(2) 研究主題設定の趣旨

平成12年度より「自己開発能力を高める進路指導」という研究主題を設けて取り組んできたが、今年度は、これまでの実践の反省を踏まえ、より個人の能力を高めるという意識に立って「学力向上」という目標を行って実践を積もうと考えている。

今年度は、研究主題にそって、「少人数T・T授業研究部」「学習活動研究部」「自主学習支援研究部」の3つの研究部会で研究授業計画等を作成し、それらの部会が連携をとりながら実践する。

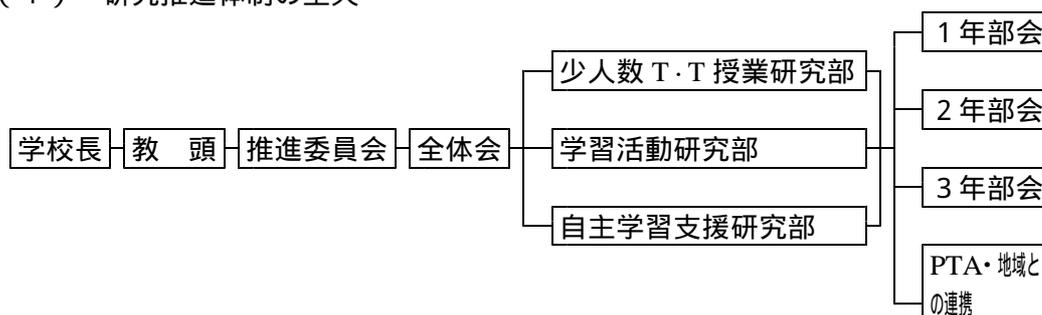
本校生徒は、近年少しずつ規範意識が薄れてきており、自己中心的な考え方をする生徒、物事に対し受動的な生徒、指示待ち、目的意識の薄い生徒がやや増えてきている。学校生活の中を見ても、積極性に欠ける行動や他人のせいにしてたり、人任せであったり、授業でも質問や応答にしっかり考えないままだったり、学習意欲に乏しい生徒も少し目につくようになってきている。

そこで、このような現状から、本年度は基礎・基本を確かなものとして、しっかりとした学力を身につけることで、自信を持って生き生きと学校生活を送り、主体的・意欲的に学習に取り組む生徒が育成できると考え、『基礎・基本を確かに身につけ、自ら学び自ら考える生徒の育成』という主題を設定し、取り組むこととした。

この取り組みの中で、自らの生き方に対して、よりよい生活態度や自ら責任をもった自己決定ができる能力を養い、さらに、基礎・基本の定着と確かな学力の育成という視点で、生徒一人ひとりに目を向けた学習活動を展開していくことにより、主題に迫ることができるものと考えている。

研究の概要（選択した観点を中心に記述すること）

(1) 研究推進体制の工夫



・校内研究会	職員間の研究に対する共通理解，実践の検討
・推進委員会	研究の全体構想づくりと検討，研究推進の連絡調整
・少人数 T・T 授業研究部	習熟度別・課題別授業など学力向上のための授業の工夫改善
・学習活動研究部	授業研究，評価，発展学習の教材開発などの取り組み等
・自主学習支援研究部	朝自習，講座，自学等，自主学習の援助・支援・工夫
・各学年部会	各研究部の立案に基づく実践，評価
・PTA，地域との連携	各研究部の立案に基づく地域とのタイアップ

(2) 研究の実際
生徒の自己評価表より

評価回数 (50回 × 3クラス)	発展グループ	基礎グループ
A. よくわかった	62%	33%
B. だいたいわかった	27%	37%
C. よくわからなかった	10%	24%
D. まったくわからなかった	1%	6%

- ・ 生徒が感じた A, B の割合ほど学習が定着していない。
- ・ 1時間単位での理解はおおむねできている。
- ・ 自己評価と評価テスト等の結果との間に差がある。
- ・ 家庭学習の定着化につながっていない。
- ・ 基礎グループでは，D の生徒が固定化されつつある。
- ・ 機械的な計算が多い数量分野では，A, B の割合が高かったが，論理的な思考力が必要な関数，図形分野では，その割合が落ちている。
- ・ 自己評価に厳しい生徒と甘い生徒がいるので，A, B, C, D の評価を単純には判断できない。

生徒の自己評価表の利用と考察について

- ・ A, B の割合の合計が 80% を越える場合は，次時の振り返りを簡単にする。C, D の割合が 50% を越える場合は，次時に丁寧な振り返りをする。その他，必要に応じて個別指導をする。
- ・ 関数や図形の分野では，論理的な思考をしなければいけない場面が増え，論理的な思考をすることに苦手意識を持つ生徒が多くいるので，C, D の割合が高くなった。しかしながら，その分野でも授業にコンピュータ等を使い視覚的に訴える授業 (パワーポイントを使った簡単な教材を作成) を展開すると A, B の割合が高くなった。

例 $y = ax^2$ のグラフ x の変域に対応する y の変域

評 価	発展グループ	基礎グループ
A. よくわかった	83%	73%
B. だいたいわかった	17%	20%
C. よくわからなかった	0%	5%
D. まったくわからなかった	0%	2%

例 相似な図形 中点連結定理の利用

評 価	発展グループ	基礎グループ
A. よくわかった	85%	70%
B. だいたいわかった	15%	25%
C. よくわからなかった	0%	5%
D. まったくわからなかった	0%	0%

例 三平方の定理 三平方の定理

評 価	発展グループ	基礎グループ
A. よくわかった	91%	74%
B. だいたいわかった	9%	21%
C. よくわからなかった	0%	5%
D. まったくわからなかった	0%	0%

コンピュータを利用した視覚的な教材を利用すると、教材の準備に時間はかかるが、生徒の興味を引きつけその学習効果は高い。

(3) 研究の成果と課題

【成果】

- ・学習の成果が著しく伸びた生徒が出ている。
- ・一斉授業より学習に向かう姿勢が積極的になった。
- ・普段、発言の少ない生徒も少人数のクラスでは発言できる。
- ・「わかった」「できた」という発言が聞かれるようになった。
- ・「これを教えて」「これが分かりません」といった発言が増えた。

【課題】

- ・個別指導が増えたので、黙っていれば何か教えてくれるといった教師に頼る生徒が出てきた。
- ・自己評価表などを見れば、学習を理解できているようでも、学習が定着しない。
- ・家庭学習が不足している。
- ・少人数の担当教師の変更をどのようにすればよいか。単元での変更，学期での変更、固定して変更しない等についてです。
- ・少人数の中の習熟度差をどのように解消するべきか。

(4) 研究成果の普及の方策

公開授業，町・郡の研究部会等の機会を利用している。

(5) その他（その他特色ある取組等がある場合に記述）

